

五月だ 両国大相撲

両国駅の構内に鬘付け油の匂いが漂う季節になった。

序盤を終って、少しばかり景色が見えてきた。五日目を終えたところで

五日目	横綱・大関	関脇・小結	平幕
全勝	大の里	大栄翔	伯桜鵬・錦木
4勝1敗		若隆景	安青錦・遠藤・狼雅・朝紅龍

横綱・大関でこの表に残ったのは大の里だけになった。

豊昇龍の相撲は、初

日から、気合いが先走り肩に力が入りすぎている感じがした。年間六場所を好成績で走り続ける力もないままに横綱の地位を手にしたのだから、「まだ未熟で修行中だ」という気持ちを持って土俵に上がることが必要だと感じる。

大の里・大栄翔は落ち着いて脚と腰と手が動いて、前進圧力をかける攻めの相撲が感じられる。若隆景も怪我をする前の状態に戻ってきたことを感じさせる取り口が見えてきた。

平幕では、伯桜鵬の「うまさ」を感じる相撲と、安青錦の低い姿勢で繰り出す様々な技が光っていた。まだ五日目、ここで誰かの何かを想像するのは早計、まずは次の五日間を注視することにしたい。

六日目から中日までの土俵の印象は……。

豊昇龍は少しずつ復調してきた感じではあるが、相変わらず気合い先行の危うさが漂っている。

大の里は適度な腰の高さで、立ち合いの踏み込みもよく、的確に相手に圧力がかかっている。

若隆景の相撲に安定感と力強さが見えてきた。伯桜鵬の巧さと、安青錦の基本に忠実な低い重心を保った取り口が、他の力士をしのぐものを見せていたのだが、中日に異変が起きた。伯桜鵬が明生の

中日	横綱・大関	関脇・小結	平幕
8戦全勝	大の里		
7勝1敗		若隆景	安青錦・伯桜鵬

小手投げに転がされてしまった。そして中日を終えたところで、無敗は大の里だけ、1敗が三人ということになった。

後半戦に入り九日目、若隆景が阿炎の引き落としに敗れてしまい、2敗に後退。

一方、大の里は落ち着いて、安定した取り口で全勝を守った。豊昇龍とは対称的な、冷静な表情と取り口が無気味になってきた。ここで気になる存在は安青錦。安美錦の再来を思わせるような相撲で、静かに白星を積み重ねている。これから上位力士との取り組みが入ってくるので、どんな結末になるか。

十日目、狼雅・欧勝馬・明生が切れ味の良い取り口で7勝目を上げた。翠富士・翔猿・美ノ海・王鵬・高安などいつも中堅で活躍する力士が不調に喘いでおり、中盤から後半の相撲が精彩を欠いている。安青錦・若隆景戦に注目が集ったが、若隆景の肩透かしに凱歌が上がった。同じ重心の低い力士同士の取組だったが、ベテランの旨味の方が何枚か上手だった。

大栄翔は、1敗の伯桜鵬を猛進・猛攻で撃破して2敗に引きずり下ろした。続く一番は、大の里が一山本を難なく退けて10勝目を上げてトップの座を守った。

残り的大関と横綱の取り組みは、さほどの声援は盛り上がりず、今場所の星取表そのものを現わしていた。10日目を終えて、大の里の後を追うのは2敗の四力士ということになってしまった。

中日	横綱・大関	関脇・小結	平幕
10 勝	大の里		
9勝1敗			
8勝2敗	豊昇龍	若隆景	安青錦・伯桜鵬

明日から、この表の中の力士同士の戦いが始まるが、大の里の独走が進んで千秋楽前に優勝が決まってしまうのか、それとも2敗力士が再浮上して混戦となるのか。

NHKの実況中継アナウンサーは、もう「大栄翔・若隆景の大関とり」と騒いでいて、うるさい。関脇・小結が全員大関になる訳でもないのに、先走りして騒ぎ立てるのは邪魔に感じる。

十一日目、幕内の取り組みは朝紅龍が狼雅の攻勢に耐えて、小手投げで勝った熱戦で始まった。朝紅龍は 178cm・123Kgの小柄な体ではあるが、幕内二場所目で初の勝ち越しとなった。

後半戦になると、勝ち越しを目指して叩き込みや引き落としなどの「楽をして勝つ」取り組みが目立って来て面白さが失せてくる。

40 才の玉鷲が 25 才の王鵬を果敢に攻め込む中で、王鵬が引き落としで勝ったのは興ざめだった。そんな流れの後で、高安・宇良戦は面白かった。立ち合い後の小競り合いが長く続いた後、高安は宇良を捕まえてほっとする間もなく「伝え反り」の奇手で転がされた。既に負け越しが決まっている力士同士の取組でも、お客様を満足させることができた。

安青錦は左を深く差して琴櫻の右腰に食い付くことに成功して、土俵際まで攻め込んだが、小手投げで逆襲されてしまい初の大関戦は黒星になった。右で前みつも取っていれば勝てたのに残念だった。

次の対戦の時には勝てそうな内容だった。安青錦は 3 敗に後退。

11 勝	大の里
10 勝1敗	
9 勝2敗	豊昇龍

若隆景は大の里を攻め込むことができたが、上手ひとつで持ちこたえられてしまい大の里の逆襲に敗れた。落ち着いてしかも機敏に対応出来ている大の里の相撲が勝った。豊昇龍は伯桜鵬の膝がガクリと入ってしまって勝ち星を拾ったが、このアクシデントに救われたような感じだった。

伯桜鵬も 3 敗に後退し、2 敗で残ったのは豊昇龍だけになった。伯桜鵬は脚を痛めたようで、おかしな歩き方で退場した。

十二日目、大の里は伯桜鵬を退けて 12 連勝。もうこうなると止められる力士は見当たらなくなってしまう。おまけに、おそらく千秋楽結びの一番で対戦するであろう豊昇龍も霧島に投げ飛ばされて3敗に後退してしまった。もっとも今場所の状況から見て、豊昇龍でも今場所の大の里に抗うことは無理かもしれない。

十二日目を終えて、星三つの差をつけた大の里の優勝はほぼ決まったようなものだが、早ければ明日にも優勝が確定する可能性がある。

12 勝	大の里
11 勝1敗	
10 勝2敗	
9勝3敗	豊昇龍・大栄翔・霧島・若隆景・朝紅龍

ここまでの状況を振り返って三賞の行方を占ってみた。殊勲賞は該当者なし・技能賞は若隆景か安青錦か・敢闘賞は朝紅龍あたりだろうか。今さら大栄翔・霧島・若隆景が敢闘賞ということもなかろうし。

十三日目、大の里は琴櫻を寄り切り、無敗のまま4回目の優勝が確定。残り二日間の見どころは全勝優勝できるかと言う点に絞られる結果となった。

小結に返り咲いた若隆景と関脇霧島が10勝3敗になり、関脇大栄翔は豊昇龍に敗れて9勝4敗。

NHKのアナウンサーは、「この三人が大関昇進の足がかりを作って、来場所は三人が大関取りに挑む

ことになるかもしれない」と騒ぎ立てていた。NHKは大関を何人作ろうとしているのか、五月蠅すぎる。

十四日目、佐田の海・安青錦・朝紅龍と好調な力士の元気な土俵が続き、負け越しが決まっているが宇良・翔猿等の一生懸命な土俵も場所を盛り上げていた。
大の里は今日も大栄翔を難無く裁いて、14戦全勝。

千秋楽、若隆景の教科書どおりの技能相撲が輝いていた。差し手・おっつけ・腰の位置・スピードすべての点で教本に載せたいような相撲で翔猿を土俵外に運んだ。
結びの一番は豊昇龍の速さと力強さが大の里を勝利、残念ながら大の里の全勝優勝はならなかった。
三賞は、殊勲賞=該当者なし 技能賞=霧島・若隆景 敢闘賞=安青錦・佐田の海 となった。

●今場所の地位別成績分布（勝ち越してきた力士のみ）

勝-敗	15-0	14-1	13-2	12-3	11-4	10-5	9-6	8-7
横綱				豊昇龍				
大関		大の里						琴櫻
関脇					霧島	大栄翔		
小結				若隆景				
平幕					安青錦	欧勝馬 金峰山 阿武尅 佐田の海 朝紅龍	明生 遠藤 狼雅	伯桜鵬 熱海富士 隆の勝 時疾風

●横綱までの足取り（大鵬：大の里）

スピード出世等の切り口でしばしば比較評価される。大鵬は前相撲から入っており、大の里は幕下10枚目格付出して始まっている。時代背景や歩いて来た道程が異なるので単純比較は難しい。
参考情報として、それぞれの地位に到達した時期を一表にまとめてみた。

地位	大 鵬（1940年5月生）		大の里（2000年6月生）	
初土俵	1956 秋	二番出世（16才）	＊少年相撲教室（7才）	
序の口	1957 初（西 23）	（16才）	＊中学校で相撲留学	
序二段	1957 春（東 83）	（16才）	＊高校で相撲部	
三段目	1957 秋（西 71）	（17才）	＊日体大相撲部（学生横綱・アマチュア横綱等）	
幕下	1958 夏（西 31）	（18才）	2023 夏（10）	10枚目格付出（22才）
十両	1959 夏（西 20）	（19才）	2023 秋（東 14）	（23 才）
幕内	1960 夏（西 13）	（20才）	2024 初（西 15）	（23 才）
小結	1960 名（西）	（20才）	2024 夏（西）	（23 才）
関脇	1960 秋（西）	（20才）	2024 名（西）	（24 才）
大関	1961 初（東張出）	（20才）	2024 九（西）	（24 才）
横綱	1961 九（西）	（21才）	2025 名	（25 才）

以上